



▲当社の安全祈願寺である川崎大師平間寺境内で7月に開催された恒例の風鈴市。全国から涼し気な音色が集合。

CONTENTS

- 1 MESSAGE
- 2 GS-TOPICS / NEW FACES
- 3 GS職場めぐり～THINK事業所～
/ MY PET自慢
- 4 KCS 訪問記



MESSAGE

人間万事塞翁が馬

京浜事業部長 島田 隆樹

ご安全に！

先日、自宅で横になっていて急に立ち上がったところ目の前が真っ暗になって転倒し、後頭部を8針縫うケガをしました。安全衛生委員長としては深く反省しているところですが、手当てを受け、後遺症も問題ないとわかった時、家内からなにげなく「大丈夫よ。人間万事塞翁が馬というじゃない」と言われました。

「人間万事塞翁が馬」。最近、どこかで聞いた言葉だと思いましたが、サッカーW杯で日本代表を率いた岡田監督が帰国した際、「子供たちにメッセージを」と求められ、そう答えていたのを思い出しました。

人生の禍福は予測がつかねるもので、その度に一喜一憂してもはじまらない。どんな境遇であっても、しなやかな心の持ちようこそ肝心。世間ではそんな戒めに用いられること

が多いようです。岡田監督は「悪い時は必ずある。それは次に成長するためのものだ」と語り、不屈の精神の尊さに重ねました。なるほど喝采を浴びて帰国した代表チームも大会直前の評価は散々なものでした。興味ある方は、語源・由来を調べてみてください。

いずれにしても、特に若い社員の方に申し上げたいことは、経験・年齢を積み重ねて、より責任の大きな仕事を任されるようになる、これが重圧に変わり失敗することもあるかと思いますが、そんなときはこの言葉を思い出し、強い気持ちでこれを克服していただきたいということです。成功体験を通じて仕事の楽しみを理解することが、その後の会社生活、ひいては人生そのものをきっと楽しいものにしてくれるはずです。ご安全に！

1
GS-TOPICS

当社ホームページを リニューアル



当社ではこのたび、ホームページを全面リニューアルしました（写真はトップページ）。いま各々がJFEグループ以外のお客さまもターゲットに、広く自力営業を展開・強化していこうとしている中、よりお客様の身になって「こんなときはどうしたらいいのだろう?」「どこに相談したらいいのだろう?」など、素朴で初期的な相談や悩みを先取りする形で見直しました。

ホームページは公開してからがスタート、どんどん更新して行きますので載せたい情報がありましたら、ご遠慮なく申し出てください。

皆さんご存知でしょうが、念のためURLは <http://www.jfe-gs.co.jp>

このURLをメールのフッター、名刺に入れるのもホームページを営業マンにするための一つの方法です。

今流行の「JFEジーエス」検索やなんていうのも良いかもしれませんね。

今後はさらに各分野別のホームページも充実させていく予定なので、社員の皆さんからのご意見、ご感想をお待ちしています。

（編集部・猪股〔本社 326〕まで）



2
GS-TOPICS

工場見学者数増加、 所より2年連続で功労表彰！

このたび京浜事業部施設管理部見学チーム（田中良次チーフ）は、JFE スチール東日本製鉄所殿より2年連続で功労表彰を受けました。これは製鉄所が積極的に進める工場見学（対象は一般株主、学生、地域の皆さんなど）の09年度受入数が、34,616人（前年度は33,730人）と、前年超えを達成したことが高く評価されたものです。



▲恒例企画「夏休み工場見学会」（今年7月）でおみやげを選ぶ子どもたち



NEW FACES

2010年5月～7月入社の皆さん



井上 淳一さん

京浜事業部・施設管理部・施設管理チーム（5月1日入社）

主務はオール京浜の空調管理。点検、メンテ、突発対処と特に夏場は大急がしですが、覚えることはたくさんあります。安全対策がしっかりしていることにも驚きました。趣味は船を出しての沖釣り。最近は江ノ島でイナダを上げています。



俣野 沙織さん

病院サービス事業部・保育（6月1日入社）

幼稚園勤務の経験はありますが、ここはアットホームな雰囲気がいいですね。いま気をつけているのは熱中症で子どもの脱水度合には注意しています。週末は社会人とバンドを結成して楽しんでいます。私の担当楽器はドラムです。



七戸 秀夫さん

ビル管理部・THINK 事業所所長（7月1日入社）

旧・JFEアーバンプラス様のグループ外転出で職場ごと当社所属になりました。仕事は変わりませんが「ジーエス文化」に早く慣れたと思います。どうぞよろしく。週末は地域のソフトボール（三塁手）でいい汗をかいています。



内藤 敬憲さん

ビル管理部・THINK 事業所（7月1日入社）

THINK 全体の清掃管理が担当です。ここは技術系ベンチャーのお客さまが多く、清掃も細心のていねいさが求められます。敷地も広く、アップダウンもある職場なので安全には十分注意しています。趣味は映画鑑賞（邦画）です。



児玉 秀一さん

ビル管理部・THINK 事業所（7月1日入社）

直接テナントさんとの窓口業務を行っています。計算や事務処理ばかりでなく、設備や居住性の相談から改善要求まで相手の立場で対応しています。趣味はバイク・ツーリング。休暇には遠出して「風」を感じています。



桑原 太一さん

ビル管理部・THINK 事業所（7月1日入社）

主務は空調運転管理です（京浜ビルB1に機械室）。テナントさんの現場の見回りも徹底して行っていますが「いつもと同じと思わない」気持ちで集中しています。二人の子供が小さいので、休日は極力スキップにつとめています。

4 新サイエンスパークを 管理・運営する ～ THINK事業所～



今回の職場は、今年7月、JFEアーバンプラス(株)から当社総合サービス事業部ビル管理部に組織ごと編入されたTHINK（シンク）事業所です。場所は皆さんよくご存知の旧NKK京浜製鉄所と技術開発本部のあった渡田北地区。事業内容は、先端技術ビジネスに取り組む「企業村」の管理・運営全般。新しくて、なんとなく面白そうな職場です。所長の七戸秀夫さん(本誌NEW FACES欄参照)を訪ね、いろいろお話をお聞きました。

(上写真は THINK正面玄関 (京浜ビル)。遠方にTHINK 1号館、2号館を望む。手前の「THINK大通り」ではテレビ、映画のロケも行われる。)

▲ THINK 事業所の皆さん。京浜ビル通用玄関にて。写真左奥が事務所

■ なつかしの京浜ビルが業務拠点

まずTHINKとは…川崎市とJFEが共同で取り組むサイエンスパーク事業のことで、「Techno Hub INnovation Kawasaki」のから文字から。Hubはハブ空港、ハブ港湾などと同じ意味で「車輪の中心」のことです。つまりこの地を世界への技術革新、新技術の発信基地にしよう、との願いをこめたネーミングなのです。川崎市でも「かながわサイエンスパーク」(KSP)、「新川崎・創造のもり」(KBIC)に次ぐ第3のサイエンスパークと位置づけ期待度を高めています。旧NKKの渡田の土地(約9ha)に主要建物群をリニューアルした事務所棟6、研究棟6、大型試験棟9、スタジオ2などで構成されています。そこへテナントとして「KSP-THINK」(KSP)や「アジア起業家村」(川崎市)らと提携しつつ民間企業・団体などを誘致しています。これにJFEグループ各社を加えて、8月現在44社・団体、約1,200人が勤務しています。

そこでのTHINK事業所の主な仕事は、広大なエリア内の設備管理・運転、清掃・ごみ回収、防犯・防災管理、官庁対応、賃料等の請求代行(オーナーはJFE都市開発殿)およびオーナーへの整備・修繕計画の提案と工事請負、テナント各社への工事企画・請負業務などです。京浜ビル1階に事務室、地階に設備運転、業務グループの詰め所があり、計14人で運営しています。とくに事務所のある京浜ビルは旧NKK京浜製鉄所で昭和43年に鶴見、川崎、水江の3所統合のシンボルとして建設されたなつかしい建物ですが、エレベーター、トイレ、空調・電気設備、配線など常に最新のものに切り替えています。何かにつけ、事業所の14人のクルーには大忙しの毎日です。

■ サイエンスに興味を持てる職場だ！

「前説」が長くなりました。やはりサイエンスパークが舞台となると説明もむずかしくなります。そこで七戸所長の本音を聞きました。「私もじつはサイエンス分野は苦手なんです。それにTHINKのテナントさんの多くは、まだ規模の小さいベンチャー企業が多い。でもその分、夢があるから社員や研究者の方は一生懸命に働いているのが判ります。だから私たち裏方は、少しでも皆さんにより良い職場環境や研究開発条件を提案したいのです」。「とくにテナントさんが独自に使いこなすラボやスタジオは、先方から見れば借り物ですからどうしても遠慮がある。そこで研究開発関連の改善工事などの相談には私たちが勉強して積極的に対応するようにしています」。

とは言ってもここ数年、七戸所長自身が先頭に立って共同スペースへの最先端技術化に取り組んで来たのも事実。京浜ビルの空調リニューアルに当たってはJFEエンジニアリングが開発した「水和物スラリーシステム」(いまエコ業界の話題です!)を導入、また照明の様式替えに当たっては高効率照明機器の採用に踏み切りました。つまりサイエンスパークの中核オフィスらしい省エネ最新技術を率先して取り入れてきたという次第です。

■ 高まる「音楽と映像のまち」への期待

ところで、THINKにはもう一つの顔があります。川崎市が目指す“音楽や映像を通じた街づくり”への積極貢献です。毎年秋(今年は11月7日)にTHINKを会場として開催される「京浜ふれあい祭り」(JFEスチール東日本製鉄所/川崎市共催)では有名無名のミュージシャンが会場所せましと演奏や歌を繰り広げます。またTHINKの施設・道路はテレビや映画のロケ地として利用されています。フジテレビ『エンジン』(出演:木村拓也、小雪)、映画『GOEMON』(監督:紀里谷和明)、『アキレスと亀』(監督:北野武)などもTHINKで撮影されました。

このように所員の皆さんは、つねに高いアンテナを持ちつつ、担当業務をこなさなければなりません。「THINK」という管理対象(=オーナー様の資産)が目の前にある以上、手抜きが許されません。いま猛烈な暑さの中で所員の皆さんはTHINKと向き合います。

「オーナー様から強く求められているのは、この場所の資産価値の保全」(七戸所長)ですが、テナント各社からの相談・苦情などにきめ細かく対応しながら、信頼される管理・運営の実を上げて行こうとする職場の皆さんの姿勢から、さらなる「資産価値の向上」を目指す意気込みが伝わってきます。この職場がひとつ当社に加わったことで、またひとつ当社の企業文化が刺激されるといいと感じました。

(文章・編集部)



マイペット自慢

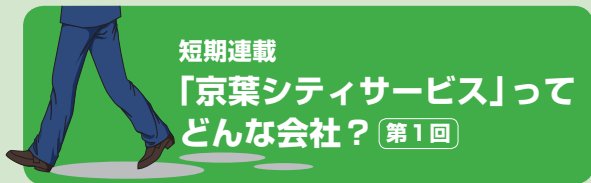
投稿
歓迎

ラブラトル・レトリバー『モモちゃん』の巻
京浜事業部 施設管理部 環境整備チーム 山下通郎さん

わが家の愛犬『モモ』は、黒ラブのメス(♀)8才です。近所でも評判の“美人犬”で、人に例えるなら、吉永小百合クラス? (エッヘン)

特技は水泳で、泳法はもちろん犬かきです。旅行に行っても水があれば、ところ構わずバシャバシャやっています。自分たちの子供も大きくなり、今では川の字になって寝ています。「子は鎧(かすがい)」といいますが、わが家では、まさに『モモ』と『孫』(写真左)が鎧です。(本人談)





短期連載
「京葉シティサービス」って
どんな会社？ 第1回



▲今回ご案内いただいた茶谷食品センター長（左）と渡辺生産グループ長

お弁当にまごころを込めて…『食品センター』

7月から佐藤社長が京葉シティサービス(KCS)社長を兼務されています。同じ東日本製鉄所において生い立ちも業容も似ている会社ですが、当社にない魅力もかなりありそうです。この機会にKCSを少し見学させていただきましょ。第1回目は「食品センター」です。私たちの昼食弁当を作っている部門ですから、大きな関心と期待を持って取材へGO！

(上写真はこの秋、イメージチェンジするKCSの標準タイプのお弁当箱)

■ 製鉄所になくてもはならぬもの、お弁当！

食品センターはJR蘇我駅から徒歩10分の住宅街にあります。ちょうど線路をはさんで製鉄所の反対側に位置し、付近には緑もたくさん残っています(じつはこの立地が後半の「水」の話のときに生きてきます)。センターの敷地面積は6,700㎡、建物は頑丈な2階建てで、1階が給食センター(作業場)、2階が事務所、会議室や厚生施設になっています。まず会議室で茶谷食品センター長と渡辺和雄生産グループ長のお二人にセンターの歴史と現状をお聞きしました。

旧川崎製鉄千葉製鉄所が構内で自前の給食業務を開始したのはじつに昭和26年、この地に製鉄所ができて、その社員用だったといいます。「当時この辺はまったくの地方でしたから、とにかく社員の食生活の確保が福利厚生の大課題だったのです」(茶谷食品センター長)。なるほど「お弁当」は「鉄づくり」の原動力として必需品だったのでしょう。その後は高度経済成長の中で1日2万食以上を提供したこともありましたが、昭和50年、現在地に社屋を移転、新給食センターとしての営業を開始しました。その業域は、メインの職域弁当から宅配弁当、配膳給食(JFEグループの独身寮や学校給食など)、特別料理(会議・行事用弁当、出張パーティなど)、その他、川鉄病院や地域文化ホールのレストラン・レストランやサッカー場の売店など、順調に内外に販路を拡大してきました。これらをこなす従業員は現在約300人。食品衛生に心する緊張の毎日、さきほどの厚生施設も必要になってくるわけです。この皆さんの生産上のモットーは『安全でおいしく』で「夏場は生野菜やタマゴ料理を避けて代替品を考えたり、食材への過熱時間と味の関係を十分に研究したり」(渡辺グループ長)、と知恵とアイデアを駆使しています。また新しい弁当容器も考案中(お弁当は見た目も大事!)とのことで、読者の皆さん、こちらはどうぞお楽しみに！

■ まごころを詰め込む！

さて、いよいよ給食センター内を案内していただきます。まず白衣、長靴、帽子にマスクといういでたちでクリーンルームを通過、強烈なエアシャワーを浴びます。作業場ではちょうどラインあげて夜食弁当づくりの真最中でした。こういう流れ作業は設備レイアウトで決まります。効率性では、どこか製鉄所のライン構造に似ています。

まず炊飯ラインは当然のことながら豪快の一言。お米7kgづつを洗い、適量水に漬けて寝かせ、点火・炊き上げ、蒸らし、さらに弁当箱に個別分け、そして盛り面を平らになるようにカット、とここまでのライン。そしてこの後のご飯をあたためるレベ



▲炊飯ライン

ルで保存運搬する設備も独自に開発しました。読者の皆さんが京浜地区で食べるお弁当のご飯(アクアラインを通過して運ばれてくる!)が温かいことを思い出してください。つぎに副食(おかず)盛り付けコンベア。ここには10人ほどのパートさんが張り付き、コンベアを流れてくる弁当箱に手際よくおかずを詰め込んで行きます。一人が1品づつ担当しているのは、人によ

て分量差を生じさせないためとか。近づいてみると、とてもいい作業で、まさにセンター理念にもなっている「一つひとつまごころを詰め込んで」いくような気持ちが伝わってきました。なお写真の上部に垂れ下がっているのは個別冷風機、通称「象の鼻」というのだそうです。



▲副食(おかず)盛り付けコンベア

見学では他に、特製食材冷蔵庫、その食材に味を付ける巨大なステンレス製調理鍋、大型焼き物機にフライヤーそして洗浄ラインに消毒庫と、そのスケールの大きさに愕然とした次第です。

■ KCSの秘宝「超おいしい水」のお話

ところでコースの最後にいったん建屋の外へ出て、敷地内にある受水ろ過設備を見せていただきました。センターの自慢のひとつだそうです。まず地下200Mから井戸水(前述のように、近くに里山の面影も残る一帯なので良質の井戸水なのです)を汲み上げ、通称「RO逆浸透膜装置」(写真)に通して、これを貯水します。米国のNASAでも同じ機能の設備を使用しています。ここから得られる「純水」はコーヒーやお茶をいれるのにも最適とのことで、こちらの炊飯にも当然使われています。会議室に戻ってきてから、その水を冷やしたものをコップで飲ませていただきましたが、単に臭みがないというだけでなく、どことなく甘味のある、「さすが純水！」という味わいでした。



いまの世の中、私たちの身の回りには食品食材が溢れかえっていますが、素朴な日本型弁当の典型を守りつつ、より発展させていこうとするKCS食品センターの姿をこの目で見るのができ(また記者自身がユーザーの1人として)、取材第1回目はたいへん有意義で感慨深いものがありました。

それにしても…今回ご案内いただいた茶谷食品センター長、渡辺グループ長にお礼を言って灼熱の街に出ると、また「あの水」が飲みたくなりました。(文章/編集部)

編集後記

京葉シティサービス・食品センターさんの取材で文中にも紹介したようにとてもおいしい水をご馳走になりました。(写真は、その純水を感激して飲む同行の広川総合サービス事業部長) こういう『社』があるのは幸せなことです。そういえばこの「かわらばん」も無事創刊1周年。読者(=取材先)の皆さんに感謝しています。ここはひとつ美酒ならぬ「純水」で乾杯！(〇)

